

委員会視察成果報告書

令和6年2月6日

犬山市議会議長

柴田浩行様

議員名 大沢秀教

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和6年 1月16日(火) ~ 令和6年 1月17日(水) (泊2日)
(2) 視察地	和歌山県有田市・奈良県北葛城郡王寺町
(3) 視察の種類	常任・特別委員会 (建設経済委員会)
(4) 視察成果 (視察地ごとに記入)	別紙にて報告します
(5) 犬山市に 対する提言	別紙にて報告します



# 視察成果報告書

犬山市議会 議長 柴田 浩行 様

犬山市議会議員 大沢秀教

下記のとおり、視察調査の成果を報告いたします。

調査日時：令和6年1月16日（火）

訪問先：和歌山県有田市 株式会社 早和果樹園

形態：常任委員会（建設経済委員会）

## 調査項目：「農業の6次産業化による地域活性化へ！ 早和果樹園の挑戦」 みかんの6次産業化の取組について

### 調査の内容

今回の有田市視察は、民間企業への視察である。日本一のみかん産地として、特に関西地方で有名な有田みかんの新たな挑戦が、6次産業化によって成功を収めた事例を学び、荒廃していくみかん山や農地の将来について提案していく参考としたいと考え、視察見学をお願いしたところ、実現した。

みかん栽培だけの農業は厳しく、たとえ豊作でも豊作貧乏で、先が見えない時代となった。

7戸のみかん農家が設立した「共撰組合」が元となり、平成12年に法人化。企業農業実践により、前向きな社風の会社となった。

1次産業部門では、ICT農業システム、光センサーの活用により、気候の影響を最小限に抑え、毎年高品質のみかんを生産する。県の果樹試験場と富士通との実証実験を経て、データ活用のスマート農業を実現した。

加工部門では、特産の有田みかんに高い付加価値を付けるための様々な取組と工夫が行われている。ジュースやゼリーだけに止まらず、皮まで全て無駄にせず、高品質の商品を生産している。新商品の開発も常に行っている。

販路開拓の3次産業部門は、高級ブランドとして全国へ世界へ飛躍するために、社員全員が販売の意識を持って徹底的に試飲販売を行っている。商品への絶対的な自信が根底にあるため、高級化に成功している。





「みかん産地の活性化」近隣のみかん農家からの受け入れも積極的に行い、高価で買い取ることで地域全体の所得向上にも貢献している。

「雇用の創出」地元有田で事業を拡大しており、地元雇用を大切にしている。また、繁忙期には最大 170 名の季節雇用が生まれている。



## 犬山市への提言

熱い言葉で説明をいただき、たいへん感銘を受けた視察研修となった。当委員会からお尋ねしていた質問内容を遥かに超える内容の充実ぶりに、ただただ驚き、感心する成果をいただいた。

こういった先進事例を視察させていただくたびに感じることであるが、結局は「人の魅力」であり、原動力は「やる気」である。ご説明いただいた代表取締役会長の秋竹新吾様が、これまで常に挑戦を続けてこられたからこそ、今があるのだと痛感させられた。それが前向きな社風を生み、「6次産業の顔」として小学校の教科書に取り上げられるまでの成功例となった。

視察をお願いした背景には、「犬山市楽田の『二宮みかん』の火をなんとか消さないためのヒントとなれば」という思いがあったが、この事例を参考にするには、あまりに生産地としての規模もレベルも違い、みかんのクオリティも違うことから、直接の参考にはならないと考えるのが正しいと思う。ただ、産業の成功例として、この事例を視察できたことはたいへん貴重であった。「農」を核としたビジネスとして、一切のブレはない。品質は最高であり、商品には絶対の自信を持ち、常に進化を目指し、努力を惜しまない企業。こんな企業が「まちの顔」として市に存在してくれることを熱望したい。

犬山市で持続的に行うことができる「農のかたち」について、農業者たちご自身にも、ぜひ視察していただきたい事例であった。

# 視察成果報告書

犬山市議会 議長 柴田 浩行 様

犬山市議会議員 大沢秀教

下記のとおり、視察調査の成果を報告いたします。

調査日時：令和6年1月17日（水）

訪問先：奈良県北葛城郡王寺町

形態：常任委員会（建設経済委員会）

調査項目：「株式会社ママスクエアと行政の連携事業について」

## 調査の内容

（王寺町）「子育てしながら柔軟に働くことができる環境整備が重要である」という思いが原点となり、王寺町とママスクエアの連携が生まれていった。

王寺町はJRと近鉄の鉄道駅があり、関西で屈指の利便性が高い町である。しかし女性の就業率は低く、「預かり保育などの環境を整えば働きたい」というニーズに答えていく必要があった。「時間にとらわれない柔軟な就労環境の提供による仕事と家庭生活の両立、新たな雇用創出による女性の活躍支援に資するため、「王寺町女性活躍支援センター」を設置した。

施設運営にあたってはプロポーザルを行い、運営会社として全国に実績のある株式会社ママスクエアを誘致した。（民間商業施設の4階に設置）

町＝行政はママスクエアの施設を整備し、求人募集を広報誌やHPに掲載。商業施設はママスクエアの場所の賃貸を行っている。

（ママスクエア）「子どものそばで働ける世の中に」という思いを形にしたキッズスペース併設型ワーキングスペースで、ママと子どもが同一施設内にいる託児所でも保育園でもない職場。これまでに全国で16件の行政連携事業を行ってきており、日本全国で1500名以上のママが柔軟に仕事をしている。

王寺町の施設と、隣町の上牧町の施設を現地視察させていただいた。

ママたちがコールセンターの業務等を行っているワーキングスペースに隣接する場所＝ガラス越しの場所にキッズスペースがあり、安心して働ける職場である。

